

第 823 回 学内演奏

木琴の魅力を探る

～往年の名木琴奏者・平岡養一(1907-1981)の人生を辿って～

2023.12.5(火)10:45～

音楽館演奏ホール

プログラム

チャールダシュ V. モンティ

金婚式 G. マリー

アイネ・クライネ・ナハトムジーク 第1楽章 W. A. モーツァルト

トリオ・ソナタ 第5番 ハ長調 第1楽章 J. S. バッハ／松園洋二編

オンブラ・マイ・フ G. F. ヘンデル

ルーマニアン・ダンス B. バルトーク

- 1 棒踊り
- 2 腰帯踊り
- 3 足踏み踊り
- 4 ブチュム人の踊り
- 5 ルーマニアのポルカ
- 6 速い踊り

かごかき 貴志康一

煙が目に染みる J. D. カーン／松園洋二編

ラ・クンパルシータ G. M. ロドリゲス／平岡養一版

ソナタ～独奏木琴のための より トッカータ T. ピットフィールド

鐘になったアマリリス 松園洋二

カルメン綺想曲 G. ビゼー／松園洋二編



「木琴」というと、多くの人が「卓上木琴」を思い浮かべるのではないのでしょうか。

本日演奏するのは、木琴の巨匠・平岡養一(1907-1981)が愛用した楽器。1935年、当時世界最高峰の打楽器メーカー・アメリカのディーガン社で作られた最上位の機種で、幅 2.2メートル、ケースに入れて 100 キロを超える大型木琴です。

本講座では、演奏を重ねて、戦前のアメリカで「世界一の木琴奏者」と言われた平岡養一の人生を辿ります。「木琴とマリンバはどう違う？」そんなお話も交えながら、木琴の魅力を探っていきたいと思います。

通崎 睦美 Tsuzaki Mutsumi 木琴

1967 年京都市生まれ。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了。マリンバのソリストとして活動する中、2005年東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会(指揮/井上道義)で、木琴の巨匠・平岡養一氏が初演した紙恭輔「木琴協奏曲」(1944)を平岡氏の木琴で演奏。それを機に、氏の愛器と約 600 点にのぼる楽譜やマレットを譲り受けた。以後、演奏・執筆活動を通して木琴の復権に力を注いでいる。2013 年に上梓した平岡の評伝『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』(講談社)で、第 24 回吉田秀和賞、第 36 回サントリー学芸賞(社会・風俗部門)を受賞。2018 年 4 月には、ニューヨーク州立大学オスウィゴ校の招きで渡米。同大学をはじめニューヨーク州郊外の各地でコンサートやマスタークラスを行った。CD に「1935」「スパイと踊子」他。著書に『天使突抜一丁目～着物と自転車と』『天使突抜 367』(淡交社)、『天使突抜おぼえ帖』(集英社インターナショナル)。2021 年、第 39 回京都府文化賞功労賞受賞。

松園 洋二 Matsuzono Yoji ピアノ

京都市立芸術大学音楽学部作曲専修卒業、音楽学部賞受賞。同大学院修了。

主な作品に、音楽物語「きつねのおきゃくさま」、歌曲集「工藤直子の詩によるうたの絵本」などがある。作品を発表する傍ら、伴奏ピアニストとしても幅広く活動。京都フランス音楽アカデミーや数々のコンクールにて伴奏を務める。

京都フィルハーモニー室内合奏団のピアニスト、平安女学院大学子ども教育学部教授を経て、現職。京都市立芸術大学では、非常勤講師としてオペラ演習、指揮法、合唱等の伴奏を務める。

